

履修学年	教 科	授業形態	週時間数
中学2年	英語（英会話を含む）	一斉・分割	6時間

教科書 NEW CROWN 2 （三省堂）	副読本 Key ワーク2年（教育開発出版社） 語順ドリル②（正進社） Mileage Reader 1（いいずな書店） キクジユク（アルク） Listening Pilot①（東京書籍）
目標・ねらい 1 英語の学習を通じて、様々な問題について興味・関心を深め、自らの考え、意見を持つ。 2 自己表現のためのツール(文法、語彙、論理展開)を身に付ける。 3 自己表現の経験を積むことによって、自己表現力を身に付ける。	
注意事項(学習方法・長期休業の課題など) 1 学習方法 (1) 予習 ア 新出単語の意味調べ・例文作成 (Vocabulary List) →本文学習後に単語テストを実施 (2) 授業 ア 帯活動 (Small Talk、速読、多読、瞬間英作文 等) イ 新出語句の発音と意味確認 ウ オーラルイントロダクションやリスニングによる本文の概要把握 エ 本文の内容理解と音読 オ 新出文法のルール の理解と活用練習 カ レッソンのトピック、新出文法を使った自己表現と発表 キ ミニ確認テスト、まとめテスト、パフォーマンステスト、キクジユクテスト 等 (3) 復習 ア 音読 イ 授業ノートを読み返す ウ 家庭学習プリント Practice Makes Perfect (PMP) エ Key ワーク、語順ドリル、自己表現ノート オ ミニ確認テストや単語テスト等に向けての準備 2 長期休業の課題 (1) 与えられたトピックについて、まとめた英文を書く。 (2) 夏期・冬期・春期テキスト(文法練習問題・長文読解問題) (3) キクジユクの例文暗記 → 休み明けに確認テストを実施	

評価について

観点	割合	授業時における項目
知識・技能	40	単語テスト・文法テスト・まとめテスト・Final Task(インタビュー・リーディングなど)
思考・判断・表現	40	英会話・パフォーマンステスト・まとめテスト・Final Task(プレゼンテーション・スピーチなど)
主体的に学習に取り組む態度	20	活動への意欲・提出物・振り返りシートなど

年間授業計画表

	単元	目標
前期	UNIT 1: My Dream Lesson 1 Peter Rabbit (1)過去形の復習 / 過去進行形 / will (2) I think (that)～. GET Plus 1 試着してもいいですか Lesson 2 My Dream (1)to不定詞(名詞用法) (2)to不定詞(副詞用法・形容詞用法) GET Plus 2 写真を撮ることは楽しい	Lesson 1 (1)be動詞・一般動詞の過去形、過去進行形、未来を表すwill を理解し、使うことができる。 (2)接続詞thatを理解し、使うことができる。 (3)イギリスの児童文学について関心を高める。 (4)ピーターラビットのあらすじを、絵を使いながら発表する ことができる。 Lesson 2 (1)to不定詞の持つ3つの用法を理解し、使うことができる。 (2)職場体験プログラムに関する文を読み、職業への関心を高 める。 (3)自分の将来像や将来の夢について考え、表現する。
	UNIT 2: Make our world better Lesson 3 Every Drop Counts (1)There is [are]構文(肯定文・否定文・疑問文) (2)動名詞 GET Plus 3 魚釣りをしてはいけません Lesson 4 Ululu (1)動詞(giveなど)+A+B (SVOO) (2)動詞(call, makeなど)+A+B (SVOC) GET Plus 4 宿題をしなければなりません	Lesson 3 (1)There is [are]～ 構文を理解し、使うことができる。 (2)動名詞を理解し、使うことができる。 (3)自然環境の保全について関心を高める。 (4)地球環境の現在の課題や未来について考える。 Lesson 4 (1)SVOOの文型を理解し、使うことができる。 (2)SVOCの文型を理解し、使うことができる。 (3)旅の楽しさと地域文化(異文化)を尊重することについて 考える。
後期	UNIT 3: Things to Do in Japan Reading For Fun 1 A Pot of Poison Lesson 5 Things to Do in Japan (1)原級・比較級・最上級 (2)同等比較(as～as…) GET Plus 5 演奏の仕方を教えましょう	Reading For Fun 1 (1)物語全体の内容と、登場人物それぞれの性格を読み取る。 Lesson 5 (1)形容詞・副詞の比較級・最上級を理解し、使うことができ る。 (2)図や表などを使いながら、情報や思いを効果的に伝える ことについて考える。 (3)外国人に紹介したい日本の文化や活動について考える。
	UNIT 4: Cultural Understanding Lesson 6 Tea from China (1)現在完了形(肯定文・疑問文) GET Plus 6 大きい声で話していただけますか Lesson 7 Rakugo Goes Overseas (1)現在完了形(肯定文・疑問文・否定文)	Lesson 6 (1)現在完了形を理解し、使うことができる。 (2)中国のお茶にまつわる歴史を読み、外国の文化への関心を 高める。 Lesson 7 (1)現在完了形を理解し、使うことができる。 (2)落語についてのインタビュー記事を読み、日本の文化を理解 する。
	UNIT 5: Reading is Fun! Reading For Fun 2 The Little Prince Futher Listening English Rakugo Futher Reading 1 Houses and Lives Futher Reading 2 Courage NEW CROWN 3 Starter Power of Music	Reading For Fun 2 The Little Prince Futher Listening English Rakugo Futher Reading 1 Houses and Lives Futher Reading 2 Courage それぞれの物語や詩の内容を理解し、読むことの楽しさを知る。

履修学年	教 科	授業形態	週時間数
中学2年	国 語	一 斉	4時間

教科書 中学国語2年（教育出版） 中学書写2（教育出版）	副読本 よくわかる中学国文法（吉野教育図書） 漢検 分野別問題集（日本漢字能力検定協会） 論理エンジンOS2（水王舎）
目標・ねらい ・言語を、「考える」「創造する」「振り返る」「学習する」「自己表現する」「分析する」「社会とやりとりする」ための手段として利用できるようにする。 ・さまざまな場面で、「聞くこと」「話すこと」「読むこと」「書くこと」「見ること」「発表すること」に関わるスキルを身につける。 ・文学および文学以外のテキストを、批判的、かつ創造的、かつ独創的に学習し分析することを探究する。 ・いろいろな時代とさまざまな文化のテキストに取り組む。 ・文学および文学以外のテキストを通して、自分の国や学校所在地の文化、その他の文化を探究し、分析する。 ・多様なメディアや伝達手段を通して言語を探究する。 ・生涯にわたる読書への関心を育む。 ・さまざまな場面において、言語的で文学的な概念とスキルを応用できるようにする。	
注意事項(学習方法・長期休業の課題など) 学習方法 予習 提示されたテキストを読み、分からない語句などは意味を辞書で調べておく。事前に課題を出された場合は、確実にその課題をこなしておく。 授業 個人作業→協働作業→個人作業の繰り返しの中で、仲間と一緒に考えながら自己の考えを深め、一つの事柄を探究していくことの楽しさ・喜びを実感できるようにする。 復習 自分の提出・提示した課題と評価規準を見比べ、課題への取り組み方として足りなかった部分、今後必要になってくであろう部分を認識する。評価に納得のいかない部分があった場合は、必要に応じて教員と面談等を行い、納得した上で次の課題に取り組む。 長期休業の課題 毎年、春・夏・冬休みに作文もしくは読書感想文を一篇ずつ課題とする。 俳句や短歌作り、その他創作、課題作文等、外部コンクールにも応募する。 小テスト 漢字テスト・語彙テストなどを定期的実施する。 書写 毛筆・硬筆併せて、年間10時間程度行う。 ※学年の状況に応じて単元が前後することがある。	

観点	割合	授業時における項目
知識・技能	20	各課題における言語使用、国文法、漢字テスト、書写
思考・判断・表現	60	テキストの分析・文章読解／口頭での発表・他者の発表の聞き方／長期休暇中の課題作文・論文や作文など文書による課題
主体的に学習に取り組む態度	20	課題の提出状況・課題への取り組み態度

年間授業計画表

	単元	目 標
前期	1 オリエンテーション 2 論理的な読み書きの探究Ⅱ (Unit1) 3 「語り」継がれてきた『平家物語』を語り継ぐ (Unit2) 4 使われる地域や時代によって異なる「用言」の探究 (Unit3) 5 文章読解演習 6 漢字の学習 7 口語文法 8 論理エンジン 9 言語技術 10 書写	1 年間を通じての授業の方針と、ねらい・目標を理解する 2 中学1年次の学びを土台とし、客観と主観が、論理とどのようにかわるかについて考える 3 語り物として語り継がれた古典作品及び伝達方法について考察する 4 日本語口語文法における「用言」と他言語、文語文法との比較をととして、「用言」の変化について探究する 5 教科書などの説明文を用いて、探究学習で学んだことを、文章読解に活かす練習をする 6 漢字の成り立ちや部首、読み、意味などについて知り、正確に漢字を読み、書き、学ぶための基本的な知識を得る 7・8 日本語を論理的に読み、書くための基本的な知識を体系的に学ぶ 9 物事を論理的に考え、読み、伝えるための基礎とスキルについて学ぶ 10 毛筆と硬筆を用いて、美しい文字を書く
後期	1 使われる地域や時代によって異なる「用言」の探究 (Unit3) (前期から引き続き) 2 『走れメロス』を読み解き・分析し、新たに蘇らせる試み (Unit4) 3 短歌の世界観のインプットとアウトプット (Unit5) 4 文章読解演習 5 漢字の学習 6 口語文法 7 論理エンジン 8 言語技術 9 書写	1 日本語口語文法における「用言」と他言語、文語文法との比較をととして、「用言」の変化について探究する 2 物語作品を批判的に分析した上で創作することで、批評と創作の関係性について探究を行う 3 ジャンルと表現の関係について探究し、創造物に表れる、表現する個性の違いについて考える 4 教科書などの説明文を用いて、探究学習で学んだことを、文章読解に活かす練習をする 5 漢字の成り立ちや部首、読み、意味などについて知り、正確に漢字を読み、書き、学ぶための基本的な知識を得る 6・7 日本語を論理的に読み、書くための基本的な知識を体系的に学ぶ 8 物事を論理的に読み、考え、伝えるための基礎とスキルについて学ぶ 9 毛筆と硬筆を用いて、美しい文字を書く

履修学年	教 科	授業形態	週時間数
中学2年	社会(地理・歴史)	一斉	3時間

教科書 社会科 中学生の地理(帝国書院) 中学校社会科地図(帝国書院) 中学社会 歴史(教育出版)	副読本 最新地理資料集総合(明治図書) 学び考える歴史 (浜島書店) 新中学問題集歴史Ⅰ・Ⅱ(教育開発出版)
目標・ねらい ・人間と環境に見られる共通点や多様性を認識すること ・個人、社会、環境の相互作用や相互依存性を理解すること ・環境の体系と人間の体系がどのように作用し進化していくかを理解すること ・人間のコミュニティーと自然環境の健やかさについて、問題点を特定し啓発すること ・地域およびグローバルなコミュニティーの責任ある市民として行動すること ・探究のスキルを養い、個人と社会とそれらが生きる環境との間の関係性を概念的に理解すること	
注意事項(学習方法・長期休業の課題など) 1 日常の学習 (1)ユニットごとに地理的分野と歴史的分野の学びをおこなう。 (2)A4サイズのファイルを準備し、配布されたプリント類をポートフォリオとしてまとめる。 (3)ユニットによって座学やグループワーク、個人ワークなどを組み合わせて行う。 (4)ユニット内容に合わせて問題集を解き知識定着をはかること。 (5)学習習慣定着のため、課題提出は必ず行うこと。 2 長期休業の学習 (1)まとまった時間を使って探究課題に取り組む。 (2)上記内容を学園祭にて展示する。	

観点	割合	授業時における項目
知識・技能	48	単元テスト・探究課題
思考・判断・表現	24	探究課題
主体的に学習に取り組む態度	28	探究課題

年間授業計画表

	単元	目標
前期	ユニット1 【歴史分野】 大航海時代とヨーロッパの海外進出 【地理分野】 日本の位置 世界と日本の時差 ★探究課題(5月)	・大航海時代に、ヨーロッパ・アメリカ・アフリカで起こったことを理解し、世界の一体化が持つさまざまな側面や意味を考察する。 【B】【D】
	ユニット2 【地理分野】 日本の地域的特色 【歴史分野】 農業・諸産業の発達 交通・流通の発達と三都 ★単元テスト・探究課題(9月)	・自然環境、人口・村落、産業、交通・通信を中核に日本の諸地域を取り上げ、その地域的差異がもたらされる実証を見いだして追究し、日本の諸地域を考察するとともに自分の考えを表現する。 【A】【C】
後期	ユニット3 【地理分野】 日本の諸地域 →第4部 地域の在り方 ★探究課題(12月)□ □ □ □ □ □	・地理的視点から諸地域の特徴と課題をとらえて表現する。また、諸地域が持続可能な発展を遂げるためにはどのような取り組みができるのか考察する。 【B】【D】
	ユニット4 【歴史分野】 欧米における近代社会の成立とアジア諸国の動き ・市民革命の時代 ・産業革命と社会の変化 ・欧米列強のアジア侵略 ★単元テスト・探究課題(2月)	市民革命や産業革命によって新しい社会が生まれたことを理解するとともに、現代につながる意味を考察する。 【A】【C】

履修学年	教科	授業形態	週時間数
中学2年	数学	分割	4時間

教科書 新しい数学 2（東京書籍） 新しい数学 3（東京書籍）	副読本 数学の学習ノート 2年（正進社）
目標・ねらい ・文字式を目的に応じて計算したり、変形したりする能力を伸ばす。 ・連立方程式や、関数の基本について理解する。 ・平面上の図形の合同や、その証明について学ぶ。	
注意事項(学習方法・長期休業の課題など) ○ユニットテストについて （1）授業内容を中心に出题する。 （2）ユニットテスト当日に、問題集を提出すること。 ○その他のテストについて （1）再テスト : ユニットテストの再テスト及び補習 （2）MN テスト : 日々の授業内容を確認する小テスト （3）DN テスト : 学習済みの内容を自宅で振り返る宿題 （4）TDN テスト : 学力テスト前に再確認するためのDN総まとめテスト ○日々の学習について （1）予習として、教科書の例題を読むと良い。ファイルを用いてプリント類を整理する。 （2）復習として、問題集を解いて答え合わせと間違い直しをする。 （3）入学前と長期休暇の宿題はワークやプリントが配布される。 （4）各教室に置いてある「数学検定の完全対策問題集（日本実業出版）」を自由に活用する。 （5）希望者に問題集「STEP演習（数研出版）」を販売する。各自のペースで取り組むこと。 （6）各自で「振り返りノート」を準備し、学力テスト後に提出する。	

評価について

観点	割合	授業時における項目
知識・技能	50	ユニットテスト・MNテスト
思考・判断・表現	30	レポート・学力テスト・TDNテスト
主体的に学習に取り組む態度	20	提出物・DNテスト

年間授業計画表

	単元	目標 【MYP評価規準】
前期	ユニット1 1章 式の計算 式の計算 文字式の利用 ユニットテスト ユニット2 2章 連立方程式 連立方程式とその解き方 連立方程式の利用 ユニットテスト レポート	・同類項について学ぶ。 ・文字を使った数を理解する。 ・目的に応じた等式の変形をする。 ・加減法を活用できる。 【A】 ・複雑な連立方程式を解く。 ・自ら立式して2数を求める。 【B・C】
	ユニット3 3章 1次関数 1次関数 1次関数の性質と調べ方 2元1次方程式と1次関数 1次関数の利用 ユニットテスト レポート ユニット4 4章 平行と合同 説明の仕組み 平行線と角	・時間にともなって増加・減少する数量の関係を、実験を通して推測する。 ・ともなって変化する数量の関係を、式や表またはグラフに表す。 ・文章題を1次方程式で解く。 【A・D】 ・いろいろな角を求める。
後期	合同な図形 5章 三角形と四角形 三角形 平行四辺形 ユニットテスト レポート	・三角形の合同を使った証明ができる。 ・三角形や四角形の性質を知る。 【A・B】
	ユニット5 6章 確率 確率 確率による説明 7章 データの比較 四分位範囲と箱ひげ図	・サイコロやコインを投げて、起こりうる場合の数を、実験を通して推測する。 ・起こりうる場合の数を数え、確率を求める。 ・範囲・四分位数を理解し、箱ひげ図をかくことができる。
	(中学3年) 8章 標本調査 レポート	・身のまわりの問題について、資料を整理しその特徴について思考・表現する。 ・一部から全体の傾向を推測する調査の方法を学習する。 【C・D】

履修学年	教 科	授業形態	週時間数
中学2年	理科(1分野)	一斉	2時間

教科書 未来へひろがるサイエンス 2 （啓林館）	副読本 定期テスト対策ワーク理科中2 (エデュケーショナルネットワーク)
ねらい ・科学とその意味するものを理解し正しく認識すること ・科学を利益と限界を伴った人間の試みとみなすこと ・疑問を抱き、問題を解決し、説明を構築し、議論を判断する、分析的で探究的かつ柔軟な思考を養うこと ・調査を計画・実施し、証拠を評価し、結論に達するスキルを養うこと ・効果的に協働しコミュニケーションをとる必要性を意識すること ・実世界における多様な文脈で言語スキルと知識を活用すること ・生物環境と非生物環境に対して敏感になること ・学習経験を振り返り、確かな情報に基づく選択をすること	
注意事項(学習方法・長期休業の課題など)	
1学習方法 (1)授業での学習と実験観察に意欲的に取り組む。 (2)復習を重視し、小单元ごとに問題演習を行う。 (3)実験の授業では、安全面を重視し、基本的な操作方法を身につける。	
2家庭学習 (1)学校からの課題を行う。 (2)総括的課題に向けた学習計画を立て実行する。 (3)夏休みには、課題等を行う。	
3授業 実験室の状況で、単元の順番を変更することがある。 状況に応じて、シラバスの内容を変更して授業を実施することがある。	

評価について

観点	割合	授業時における項目
知識・技能	40	テストや課題、実験の技能
思考・判断・表現	40	テスト、授業プリントやレポートなどの提出物
主体的に学習に取り組む態度	20	授業態度、提出物

年間授業計画表

	単元	目 標
前期	MYP UNIT1 [エネルギー] 電流の性質とその利用 2章 電流の正体 1章 電流の性質	電流の正体を知る。 回路の基本的性質や、電圧と電流との関係について、規則性を見いだす。 実験機器の操作や実験結果の処理についての技能を習得する。
	3章 電流と磁界	日常生活と関連づけながら静電気の性質について調べ、静電気と電流には関係があることを見いだす。 真空放電の実験から、電流の正体について理解する。 日常生活と関連付けながら、電流の磁気作用や電流と磁界との相互作用を理解させ、直流と交流の違いを理解する。
後期	MYP UNIT3 [物質] 化学変化と原子・分子 1章 物質の成り立ち 2章 物質の表し方	・物質を分解する実験を通し、分解して生成した物質から元の物質の成分が推定できることを見いだす。 ・物質は原子や分子からできていることを認識する。 ・原子や分子を化学式で表すことができるようにする。 ・化学反応式によって、物質の組成や化学変化を表すことができるようにする。
	3章 ささまざまな化学変化 4章 化学変化と物質の質量	・2種類の物質が反応して結びつく実験を通し、反応前とは異なる物質が生成することを見いだす。 ・さまざまな化学反応を原子・分子のモデルや化学反応式を用いて説明できるようにする。 ・酸化と還元が同時に起きていることを認識する。 ・化学反応には熱の出入りが伴うことに、化学カイロなどの身近な例を通し気づく。 ・実験を通じて、化学変化の前後では物質の質量の総和が等しいこと、反応する物質の質量の間には一定の関係があることを見いだす。

履修学年	教 科	授業形態	週時間数
中学2年	理科(2分野)	一斉	2時間

教科書 未来へひろがるサイエンス 2 （啓林館）	副読本 定期テスト対策ワーク理科中2 (エデュケーショナルネットワーク)
ねらい ・科学とその意味するものを理解し正しく認識すること ・科学を利益と限界を伴った人間の試みとみなすこと ・疑問を抱き、問題を解決し、説明を構築し、議論を判断する、分析的で探究的かつ柔軟な思考を養うこと ・調査を計画・実施し、証拠を評価し、結論に達するスキルを養うこと ・効果的に協働しコミュニケーションをとる必要性を意識すること ・実世界における多様な文脈で言語スキルと知識を活用すること ・生物環境と非生物環境に対して敏感になること ・学習経験を振り返り、確かな情報に基づく選択をすること	
注意事項(学習方法・長期休業の課題など)	
1学習方法 (1)授業での学習と実験観察に意欲的に取り組む。 (2)復習を重視し、小单元ごとに問題演習を行う。 (3)実験の授業では、安全面を重視し、基本的な操作方法を身につける。	
2家庭学習 (1)学校からの課題を行う。 (2)テストに向けた学習計画を立て実行する。 (3)夏休みには、課題等を行う。	
3授業 実験室の状況で、単元の順番を変更することがある。 状況に応じて、シラバスの内容を変更して授業を実施することがある。	

評価について

観点	割合	授業時における項目
知識・技能	40	テストや課題、実験の技能
思考・判断・表現	40	テスト、授業プリントやレポートなどの提出物
主体的に学習に取り組む態度	20	授業態度、提出物

年間授業計画表

	単元	目 標
前期	ユニット2 [生命]生物の体のつくりとはたらき 1章 生物の体をつくるもの 2章 植物の体のつくりとはたらき	1章 生物の体をつくる細胞もの 生物の組織などの観察を行い、生物の体が細胞からできている こと、および植物と動物の細胞のつくりの特徴を見いだす理解する。 2章 植物の体のつくりとはたらき 植物の葉や茎、根のつくりについての観察を行い、それらのつくりと、光合成、呼吸、蒸散のはたらきに関する実験の結果とを関連づけて理解する。
	3章 動物の体のつくりとはたらき 4章 動物の行動のしくみ	3章 動物の体のつくりとはたらき 消化や呼吸、血液の循環についての観察・実験を行い、動物の体が必要な物質を取り入れ運搬しているしくみを観察・実験の結果と関連づけて理解する。また、不要となった物質を排出するしくみがあることを理解する。 4章 動物の行動のしくみ 動物が外界の刺激に適切に反応している様子の観察を行い、そのしくみを感覚器官、神経および運動器官のつくりと関連づけて理解する。
後期	ユニット4 [地球編]地球の大気と天気の変化 1章 地球をとり巻く大気のようにす	1章 地球をとり巻く大気のようにす 地表にあるものすべてに大気圧がはたらいていることを理解し、身のまわりの大気存在を認識する。また、身のまわりの大気の状態を継続的に観測し、気象要素の変化と天気の変化の関係を見いだす。
	2章 大気中の水の変化	2章 大気中の水の変化 霧や雲のでき方を空気中の水の変化と関連づけて理解する。また、地球上の水がさまざまな状態で存在し、霧、雲、雨や雪はその循環の一部であることを認識する。
	3章 天気の変化と大気の動き 4章 大気の動きと日本の四季	3章 天気の変化と大気の動き 気圧配置によって、大気の動きが生じることを理解する。また、日本部金の高気圧や低気圧の移動と、それに伴う天気の変化を、地球規模の大気の動きの一部として捉える。 4章 大気の動きと日本の四季 大陸と海洋の温度差によって生じる大気の動きが、日本の気象に影響を与えることを理解する。さらに、日本付近で盛衰する3つの気団と関連づけながら、日本の四季の天気の特徴とそれが生じるしくみを理解する。

履修学年	教 科	授業形態	週時間数
中学2年	音 楽	一 斉	1時間

教科書 中学生の音楽 2・3年 上 (教育芸術社) 中学生の器楽 (教育芸術社)	副教材 アルトリコーダー
目標・ねらい ・音を使って、自分を表現する喜びを味わい、豊かな人間性を養う。 ・演奏や鑑賞を通して、他と協力して一つのもので作り上げる喜びを体験する。 ・演奏を聴きあい、互いの理解を深める。	
注意事項(学習方法・長期休業の課題など) ・授業の進度により課題の出る場合がある。 ・各種コンクール等への自主参加は自由。 ・ユニットに関わらず、演奏活動は随時行う。	

評価について

観点	割合	授業時における項目
知識・技能	40	まとめテスト・パフォーマンス・小テスト
思考・判断・表現	40	パフォーマンス・平常点・鑑賞
主体的に学習に取り組む態度	20	課題への取り組み・まとめテスト・小テスト・平常点

年間授業計画表

	単元	目 標
前期	ユニット1【Sing!Sing!Sing!】 歌唱:曲想の変化の理解と表現の工夫 アルトリコーダー 楽典:音楽記号 パフォーマンス 発表	・曲の構成や曲想の変化を感じ取って歌う。 ・言葉と旋律の関係を理解して表現を工夫する。 ・音高に合わせた演奏技術を身に付ける。 ・曲想に相応しい音色を探究する ・音楽記号を理解し、楽譜を読み取る力をつける。 ・互いに協力し合い、音楽を通してコミュニケーションを深める。
	ユニット3【広がる音楽・広がる世界】 鑑賞:オーケストラ まとめテスト	・オーケストラ楽器についての知識を得る。 ・楽器ごとの歴史や特色を知り、オーケストラの魅力を探究する。 ・交響曲・ソナタ形式を学び、形式の上に成り立つ音楽の楽しみ方を探究する。 ・曲のしぐみに注目して名曲を楽しむ。 ・作曲家の人生について知識を深め、楽曲への思いを感じ取る。
	ユニット5【オペラを知ろう】 鑑賞:オペラ まとめテスト 演奏(アルトリコーダー・歌唱)	・総合芸術であるオペラの要素を学ぶ ・オペラを鑑賞し曲想と音楽構造の関わりを理解する ・オペラの良さを味わって聴く ・オペラ『アイーダ』を広く広告する文章を作成する ・曲の持つ情緒を味わいながら演奏する。 ・曲の構成と音の重なり方を理解して表現を工夫する。 ・演奏に必要な技術を身に付け、自身の表現を探る。 ・他と協力し、よく聴き合いながら演奏する。
	ユニット6 【目指せ！名プロデューサー！】(音美合同) CM作成 社会におけるアート□	・限られた時間のなかで、伝えたい情報を明確にし、他者に効果的に伝達する。 ・社会の問題を自分なりの視点でとらえ、他者へ問題提起、または解決法を提案をする。 ・音楽が視覚情報をどのように補いうるかの検証をする。 ・音楽が聴き手に与える印象を分析し、効果的な音楽を創り出す。□ ・多くの人に問いかけを投げかけるアート表現の在り方や可能性を模索する。 ・自作及び他者の作品を客観的に評価する。

履修学年	教 科	授業形態	週時間数
中学2年	美術	一斉	1.3時間

教科書 美術2・3(光村図書)	副読本 なし
目標・ねらい ・主体的に美術の活動に取り組むなかで、美術を愛好する心情を深め、心豊かな生活を創造していく意欲と能力を高める。 ・対象を見つめ感じ取る力や想像力を一層高め、独創的・総合的な見方や考え方を培い、豊かに発想し構想する能力や、自分の表現を創意工夫し、創造的に表現する力を伸ばす。 ・自然の造形や芸術作品などについての基礎的な理解や見方を広げ、芸術文化に対する関心を高め、良さや美しさを味わう鑑賞の能力を育てる。 ・創造的な思考力を高め、多様性を受け入れるとともに、自己及び他者理解を深める。	
注意事項(学習方法・長期休業の課題など) ・作業時には、制服が汚れないように十分注意し、タブリエや、エプロン、スモックなどを着用する。 ・筆記用具、教科書、絵の具バック、タブレットを持参する。 ・各種コンクールへの参加は自由。 ・授業進度によって、課題の変更がある。	
長期休業課題 作品調べレポート、美術館レポート、作品制作、資料・材料集めなどのなかから、学習内容に合わせて休み前の授業内にて指示。	

評価について

観点	割合	授業時における項目
知識・技能	40	提出物(記述・作品)・テスト
思考・判断・表現	40	提出物(記述・作品)・テスト・鑑賞
主体的に学習に取り組む態度	20	提出物(記述・作品)

年間授業計画表

	単元	目 標
前期	デザイン・塑像 ユニット2「ドリンク開発」 ・ユニバーサルデザインについての学習 ・商品のデザイン ・商品PR/ポスター作成	・人々の暮らしに寄り添った形や手触りについて模索し、機能性と美しさを兼ね備えたデザインの構想を練る。 ・商品と人、社会との関係性について理解し、社会や他者とのニーズに対応できるデザインや機能を考え、かたちにする。 ・作成したものを、より魅力的に他者へアピールする力を身に着ける。 ・ユニバーサルデザインへの理解を深め、社会のなかの美術の可能性や、その働きについて議論し、創造活動の意義を理解する。 □ □
	鑑賞・デッサン ユニット4「美の審査員」 ・絵画鑑賞 ・鉛筆デッサン(モチーフ:手)	・身近なものを異なる視点で分析し、自身の表現に転移する。 ・様々な時代の美術作品から作者の創造的工夫や心情を感じ取り、自分の見方や考えを深める。□作品のよさや美しさについて自分の考えを持ち、それらを他者と共有する。□ ・対象を深く見つめる観察力と描写力を高めるとともに、画材の特性を学び、主題に沿った表現法を考える。□ ・現代における美のあり方や、自・他にとつての美の価値観に意識を向け、多角的な芸術文化への理解を深める。□
	映像 ユニット6「目指せ！名プロデューサー」(音美合同) ・CM作成 ・社会におけるアート	・限られた時間のなかで、伝えたい情報を明確にし、他者に効果的に伝達する。 ・社会の問題を自分なりの視点でとらえ、他者へ問題提起、または解決法を提案をする。 ・映像作品の特性を理解し、効果的な展開やアングルなどの構成を考える。 ・多くの人に問いかけを投げかけるアート表現の在り方や可能性を模索する。 ・自作及び他者の作品を客観的に評価する。
後期		

履修学年	教 科	授業形態	週時間数
中学2年	保健体育	一斉	3時間

教科書 中学保健体育 （学研）	副読本 中学体育実技 2021 （横浜市版 学研）
目標・ねらい（IBの目標） ・保健体育の概念を探るために探求心を駆使する ・多様な状況に効果的に関わる →場面や状況の変化にどう対応するべきか？ ・運動の価値を理解する →何のために運動するのか？ ・健康的なライフスタイルを達成し、維持する →健康的なライフスタイルとはどのようなものか？ ・効果的に連携し、コミュニケーションを図る →どのようなコミュニケーションをとるか？ ・肯定的な人間関係を築き、社会的な責任感を実際に示す →前向きに仲間と関わるために自分の果たす役割は何か？ ・自身の学習経験を振り返る →自分のできること、苦手なことは何か？どうすればできるようになるか？	
注意事項(学習方法・長期休業の課題など) ○体操服をきちんと着用すること。 ○怪我の防止のため、準備運動を徹底すること。 ○ユニットごとにペーパーテストを行う ○ワークシートを期限に提出すること 見学の取り扱い ・自分の体調を考えながら可能な範囲で参加をし、できるだけ見学はしないこと。 ・見学届は事前に提出すること。	

評価について

観点	割合	授業時における項目
知識・技能	50	ペーパーテスト・実技テスト
思考・判断・表現	25	授業内での取り組み、ワークシート
主体的に学習に取り組む態度	25	授業内での状況判断、ワークシート

年間授業計画表

	単元	目標
前期	体育祭関係 ラジオ体操第2 競技の説明・練習 学年演技の練習	・集団の中での役割を自覚し、行動できるようになる。
	【ユニット1】 ハンドボール	・空き(スペース・人)を作るための工夫や変化を探究する。 ・最善な選択をし、効果的な場面を創りだすために、以下の技術を習得する。 ・パス ・シュート ・フェイント
	水泳	・プール、海、川での事故とその防止法について理解する。
	体づくり運動	・体を動かす楽しさや心地よさを味わい、体力を高め、目的に適した運動を身に付け、組み合わせることができるようにする。
後期	保健	・中学生のからだの発達と健康を理解する。
	【ユニット2】 走り高跳び	・より高いバーを越えるためにかかわりのある要素は何か探究する。
	【ユニット3】 ソフトボール	・跳び箱に関しての自分の課題を見つけ、練習方法を探究する。
	【ユニット4】 跳び箱	・基本技術を身に付ける。 ・トスバッティングからのゲームを行う。 ・チームが機能するためのポジション・打順を考える。
後期	【ユニット5】 空手	・基本型Ⅱを習得する。 ・団体型の見せ方を探究する。
	【ユニット6】 ダンス	・リズムダンス(グループ):決められた振り付けの一部分をグループで創作する。 ・表現:テーマに合った動きをグループで表現する
	保健	・中学生の心の発達と健康を理解する。

履修学年	教 科	授業形態	週時間数
中学2年	技術・家庭(家庭分野)	一斉	1時間

教科書 新しい技術・家庭 家庭分野 自立と共生を目指して(東京書籍)	副読本 なし
目標・ねらい 生活に必要な基礎的・基本的な知識と技術の習得を通して、生活と技術とのかかわりについて理解を深め、進んで生活を工夫し、創造する能力と実践的な態度を身につける。	
注意事項(学習方法・長期休業の課題など) 1 プリント、課題などは必ず提出すること。 2 調理実習では、班で作業することも考え、なるべく欠席のないよう体調管理に注意すること。 3 長期休業中には、家庭での実践を含めたレポート等の課題がある。	

評価について

観点	割合	授業時における項目
知識・技能	40	確認テスト、実技テスト
思考・判断・表現	40	ワークシート、課題レポートの内容
主体的に学習に取り組む姿勢	20	授業、課題への取り組み状況

年間授業計画表

	単元	目標
前期	私たちの食生活(Unit1) 食事の役割と中学生の栄養の特徴	自分の食生活に関心を持ち、生活の中で食事が果たす役割を理解し、健康により良い食習慣について考える。 栄養素の種類と働きを知り、中学生に必要な栄養の特徴について考える。
	中学生に必要な栄養を満たす食事	食品の栄養的特質や中学生の1日に必要な食品の種類と概量について配慮しながら、中学生の1日の献立を考えることができる。
後期	調理のための食品の選択と購入	生鮮食品と加工食品の表示について知り、食品の品質を見分け、用途に応じて選択できる。
	日常食の調理と地域の食文化	食生活に関心を持ち、日常食調理などの活動を工夫し、計画をたてて実践できる。 安全と衛生に留意し、食品や調理器具の適切な管理ができる。□ □ □ □
	持続可能な食生活を目指して	環境と日本の食糧事情について学び、自分の食生活を世界の視点から見直す。 持続可能な食生活をおくるために食生活を工夫することができる。

履修学年	科目	授業形態	単位数
中学2年	技術・家庭(技術分野)	一斉	1単位

教科書 新しい技術・家庭 技術分野(東京書籍)	副教材 Google Classroom
目標・ねらい 生物育成・エネルギー変換の技術学習を通して、栽培や電気回路などの基礎的な知識・技能を習得するとともに、生活や社会の中から問題を見いだして課題を設定し、解決する力、適切かつ誠実に生物育成・エネルギー変換の技術を工夫し創造しようとする実践的な態度を養う。	
注意事項(学習方法・長期休業の課題など) ・課題は、授業時に終わらせることが前提であるが、終わらない場合は放課後補習という形態をとることがある。 ・グループワークや実習を多く取り入れた授業形態となるため、積極的な活動が求められる。 ・授業を欠席した場合は、登校日に授業内容の確認に来ること。 ・提出物は期限厳守。未提出や提出遅れは平常点の大幅な減点対象となるため注意すること。	

評価について

項目	割合(%)	項目内容
知識・技能	40	製作品
思考・判断・表現	40	ワークシート、課題レポートの内容
主体的に学習に取り組む姿勢	20	授業、課題への取り組み状況

年間授業計画表

	単元	目標
前期	技術分野のガイダンス 生物育成の技術の原理・法則と仕組み 生物育成の技術による問題解決	生活や社会を支えているさまざまな技術に関心を持つとともに、2年間の技術分野の学習の見通しを立てることができる。 育成する生物の成長、生態の特性等の原理・法則と、育成環境の調節方法等の基礎的な技術の仕組みについて理解し、技術に込められた問題解決の工夫について考える。 問題を見いだして課題を設定し、育成環境の調節方法を構想して育成計画を立てるとともに、栽培の過程や結果の評価、改善および修正について考える。
	エネルギー変換の技術の原理・法則と仕組み	電気、運動、熱の特性等の原理・法則と、エネルギーの変換や伝達等に関わる基礎的な技術の仕組みおよび保守点検の必要性について理解し、技術に込められた問題解決の工夫について考える。
後期	エネルギー変換の技術による問題解決	安全・適切な製作、実装、点検および調整等ができる。 問題を見いだして課題を設定し、電気回路または力学的な機構等を構想して設計を具体化するとともに、製作の過程や結果の評価、改善および修正について考える。
	社会の発展とエネルギー変換の技術	生活や社会、環境との関わりを踏まえて、技術の概念を理解すること。 技術を評価し、適切な選択と管理・運用の在り方や、新たな発想に基づく改良と応用について考える。

履修学年	教 科	授業形態	週時間数
中学2年	宗 教	一 斉	1時間

教科書 聖書 新共同訳続編つき （日本聖書協会）	副読本 なし
目標・ねらい ①学園の建学の精神に触れ、キリスト教の基礎的な知識を身に付ける。 ②キリスト教の歴史を理解する。 ③聖書に触れ、神のメッセージを学ぶ。 ④生徒一人ひとりが神に愛されていることを実感させる。	
注意事項(学習方法・長期休業の課題など) ・ 聖書のみことばと、現代社会の諸問題を関連付けながら、学ぶように導く。 ・ 修養会などの宗教行事に関しての事前の準備と、事後の振り返りを行う。 ・ 修養会ノートの提出や、課題に対するレポートを定期的に課す。 ・ 夏休みには読書感想を書く。(宗教書などの指定は適宜行う)	

評価について

観点	割合	授業時における項目
宗教への興味・関心	20	提出物・修養会ノート
キリスト教についての知識・理解	60	課題
キリスト教的価値観を表現する力	20	課題・レポート(読書感想文など)

年間授業計画表

	単元	目 標
前期	・イエス誕生前のイスラエル ・イエス・キリストの誕生 ・マリア、ヨゼフについて、ザカリアの物語	・イスラエルの社会的背景の中で、救い主誕生の意義を理解する。 ・「神の子」の誕生意義を考える。 ・聖母マリアと聖ヨゼフの生涯とアブラハムのお告げを理解する。 ・洗礼者ヨハネとの関わりを理解する。
	・イエスの生涯(神殿でのイエス(12歳)) ・12人の弟子	・生徒と同じ世代のイエスについて理解を深める。 ・弟子たちの存在。 ・12使徒のメンバーを知り、その生涯を理解する。
後期	・ドン・ボスコについて ・修養会について	・聖人の生き方を通してキリスト教について理解する。 指導司祭の紹介・テーマの確認・ミサや修養会の企画運営。
	・イエスの宣教 （１）イエスの奇跡 （２）たとえ話	・「父の愛」、「神の愛」を理解する。 ・聖書のたとえ話の意図を理解する。 ・「隣人」についての理解を深める。